

平成17年5月19日

各位

株式会社T & Dホールディングス
(コード番号8795 東証・大証第一部)
太陽生命保険株式会社
大同生命保険株式会社
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社

「平成17年3月期決算」のお知らせ

T & D保険グループ(T & Dホールディングス、太陽生命、大同生命、T & Dフィナンシャル生命)の平成17年3月期(平成16年4月1日~平成17年3月31日)の決算について下記のとおり

お知らせいたします。詳細は、次ページ以降をご参照ください。

契約業績(個人保険・個人年金保険)

生命保険会社3社合算の契約業績は、概ね順調に推移しました。

- ・新契約高は、7兆5,449億円と、ほぼ前年並みとなりました。
- ・解約失効高は、4兆8,757億円、前年から6.2%の減少と、大きく改善しました。
- ・保有契約高は、59兆5,735億円、前年度末から1.8%の増加となりました。

なお、太陽生命、大同生命ともに、保有契約高が過去最高となりました。

損益関係(T & Dホールディングス連結)

- ・経常収益は2兆3,167億円となりました。
- ・経常利益は1,088億円となり、通期業績予想(1,070億円)を上回りました。
- ・当期純利益は371億円となり、通期業績予想(400億円)を下回りました。

以上

【お問合せ先】

株式会社T & Dホールディングス	広報部	熊谷 寛	03-3231-8685
太陽生命保険株式会社	広報室	長嶺 秀一	03-3231-8634
大同生命保険株式会社	広報課	堀込 一明	03-3281-1148
	大阪広報課	市村 秀史	06-6447-6258
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課	伊藤 隆之	03-3593-8100

[契約業績（個人保険・個人年金保険）]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
新契約高	75,449	0.3%減	28,910	2.7%増	43,542	1.0%増	2,997	32.5%減
解約失効高 (解約失効率)	48,757 (-)	6.2%減 -	14,240 (8.86%)	4.5%増 0.06ポイント低下	30,265 (7.70%)	8.8%減 0.74ポイント低下	4,251 (13.56%)	18.0%減 2.09ポイント低下

(注) 1. 新契約高には転換による純増加高を含みます。

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年度末比	当事業年度末	前年度末比	当事業年度末	前年度末比	当事業年度末	前年度末比
保有契約高	595,735	1.8%増	169,662	5.5%増	396,942	1.0%増	29,130	7.1%減

< 3社合算 >

- ・新契約高は、7兆5,449億円と、ほぼ前年並み。
- ・解約失効高は、4兆8,757億円となり、前年から6.2%の減少と、大きく改善。
- ・保有契約高は、59兆5,735億円となり、前年度末から1.8%増加。

太陽生命

- ・新契約高は、終身保険「太陽生命の保険組曲」をはじめとする保障性商品が好調に推移し、2兆8,910億円、前年から2.7%の増加。
なお、主力商品「太陽生命の保険組曲」の新契約件数は13.3万件、前年から15.0%の増加（平成15年4月の発売からは累計成約件数25万件）。新契約高は2兆1,432億円、前年から5.9%の増加。
- ・解約失効高は、1兆4,240億円、前年から4.5%の増加。
解約失効率は、8.86%、前年から0.06ポイントの改善。
- ・保有契約高は、16兆9,662億円、前年度末から8,883億円、5.5%の増加。
うち個人保険は、12兆7,065億円、前年度末から1兆1,285億円、9.7%の増加。

大同生命

- ・新契約高は、4兆3,542億円、前年から1.0%の増加。
うち主力の個人定期保険は、4兆1,260億円、前年から0.9%の増加。
- ・解約失効高は、3兆265億円、前年から8.8%の減少と、改善。
解約失効率は、7.70%、前年から0.74ポイントの改善。
- ・保有契約高は、39兆6,942億円、前年度末から3,993億円、1.0%の増加。
うち個人定期保険は、35兆4,796億円、前年度末から5,155億円、1.5%の増加。

T & Dフィナンシャル生命

- ・新契約高は、2,997億円、前年から32.5%の減少。なお、変額個人年金保険の新契約高は608億円、前年から32.7%の減少。
- ・解約失効高は、旧東京生命契約の解約鎮静化により4,251億円、前年から18.0%の減少。
解約失効率は、13.56%、前年から2.09ポイントの改善。
- ・保有契約高は、2兆9,130億円、前年度末からは、2,227億円、7.1%の減少。
うち変額個人年金保険の保有契約高は、2,457億円、前年度末から706億円、40.4%の増加。

[損益関係]

(単位：億円)

	T & Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当連結会計年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
経常収益	23,167	-	11,418	9.2%減	10,590	11.0%減	1,502	19.9%減
うち保険料等収入	17,989	-	7,881	0.8%減	8,848	4.7%減	1,260	19.3%減
うち資産運用収益	3,361	-	1,777	32.0%減	1,466	24.6%減	131	56.1%減
経常費用	22,079	-	11,158	9.0%減	9,632	11.3%減	1,630	14.2%減
うち保険金等支払金	18,256	-	9,313	4.6%減	8,050	11.5%減	891	2.2%増
うち資産運用費用	920	-	599	49.1%減	329	34.0%減	4	18.4%減
経常利益(損失)	1,088	-	260	18.2%減	958	8.5%減	128	-
特別利益	42	-	70	2,989.1%増	87	107.0%増	0	99.4%減
特別損失	161	-	77	7.6%増	76	56.4%減	6	46.0%増
契約者配当準備金繰入額	449	-	134	12.6%増	305	0.1%増	10	17.5%減
税引前当期純利益	519	-	119	8.1%減	663	8.8%増	145	-
法人税及び住民税等	146	-	47	20.3%減	330	44.2%増	196	-
当期純利益	371	-	71	2.3%増	333	12.5%減	50	-

- (注) 1. 当年度より、T & Dホールディングスの連結決算を行っております。この結果、T & Dホールディングス連結の各数値は、生命保険会社3社の単純合算とは一致しない場合があります。
2. T & Dホールディングス連結の前年比は、前連結会計年度の数値がないため、記載を省略しております。
3. 税引前当期純利益は、T & Dホールディングス連結においては税金等調整前当期純利益をあらわします。
4. 法人税及び住民税等は、法人税等調整額を含んでおります。

< T & Dホールディングス連結 >

- ・ 経常収益は、2兆3,167億円。
- ・ 経常利益は、1,088億円。
- ・ 当期純利益は、371億円。

なお、生命保険会社3社の当期純利益の単純合算455億円と連結の当期純利益371億円との差額84億円は、主に太陽生命及び大同生命の特別利益に計上されている親会社株式売却益116億円(税引後74億円)が、T & Dホールディングスの連結損益計算書には計上されない(連結貸借対照表において資本剰余金に計上)ことによる。

太陽生命

- ・ 保険料等収入は、7,881億円、前年から0.8%の減少とほぼ横ばい。
- ・ 資産運用収益は、主に有価証券売却益の減少、利息及び配当金等収入の減少などにより1,777億円、前年から32.0%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、解約返戻金の減少などにより、9,313億円、前年から4.6%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に有価証券売却損の減少などにより599億円、前年から49.1%の減少。
- ・ 経常利益は、260億円、前年から18.2%の減少。
- ・ 特別利益は、主にT & Dホールディングス株式売却益58億円の計上により、70億円(前期2億円)。
- ・ 特別損失は、主に不動産動産等処分損55億円の計上により、77億円(前期72億円)。
- ・ 当期純利益は、71億円、前年から2.3%の増加。

大同生命

- ・ 保険料等収入は、主に団体年金保険の減少により、8,848億円、前年から4.7%の減少。
なお、個人保険・個人年金保険の保険料は、前年から3.6%の増加。
- ・ 資産運用収益は、主に有価証券売却益の減少により、1,466億円、前年から24.6%の減少。
- ・ 保険金等支払金は、主に団体年金保険の支払金の減少により、8,050億円、前年から11.5%の減少。
- ・ 資産運用費用は、主に金融派生商品費用の減少により、329億円、前年から34.0%の減少。
- ・ 経常利益は、958億円、前年から8.5%の減少。減少は主に、資産運用損益が減少したため。
- ・ 特別利益は、主にT & Dホールディングス株式売却益58億円の計上により、87億円、前年から107.0%の増加。
- ・ 特別損失は、主に不動産動産等処分損の減少により、76億円、前年から56.4%の減少。
- ・ 当期純利益は、333億円、前年から12.5%の減少。

T & Dフィナンシャル生命

- ・保険料等収入は、主に変額個人年金保険の新契約減少により、1,260億円、前年から19.3%の減少。
- ・資産運用収益は、主に特別勘定資産運用収益の減少により、131億円、前年から56.1%の減少。
- ・保険金等支払金は、891億円、前年から2.2%の増加。
- ・資産運用費用は、主にその他運用費用の減少等により、4億円、前年から18.4%の減少。
- ・経常損失は、128億円。経常損失となった主な要因は、健全性を一層確保するために、変額個人年金保険の保有契約全件に新ルールに対応した最低保証リスクにかかる責任準備金を86億円繰り入れたこと、当決算期における営業権の償却65億円を実施したことによる。(営業権の償却は平成18年3月期で終了。)
- ・当期純利益は、連結納税の適用の効果(繰越欠損金含む)により、50億円。

[総資産]

(単位：億円)

	T & Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当連結会計年度末	前年度末比較増減	当事業年度末	前年度末比較増減	当事業年度末	前年度末比較増減	当事業年度末	前年度末比較増減
総資産	130,434	-	62,765	1,329	59,837	341	7,272	449

(注) 1. 当年度より、T & Dホールディングスの連結決算を行っております。この結果、T & Dホールディングス連結の各数値は、生命保険会社3社の単純合算とは一致しておりません。

2. T & Dホールディングス連結の前年度末比較増減は、前連結会計年度末の数値がないため、記載を省略しております。

< T & Dホールディングス連結 >

- ・総資産は、13兆434億円。

[その他の指標]

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比	当事業年度	前年比
基礎利益	1,298	8.4%減	338	9.9%減	1,027	4.3%減	67	-
逆ざや額	625	153増	391	89増	194	65増	39	0減

(単位：億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当事業年度末	前年度末比較増減	当事業年度末	前年度末比較増減	当事業年度末	前年度末比較増減	当事業年度末	前年度末比較増減
ソルベンシー・マージン比率			865.7%	2.4ポイント上昇	1,037.2%	2.3ポイント上昇	721.7%	263.1ポイント低下
実質純資産	11,750	559増	4,642	122増	6,696	370増	411	65増

< 3社合算 >

- ・基礎利益は、1,298億円となり、前年から8.4%減少。
- ・逆ざや額は、625億円となり、前年から153億円増加。
- ・実質純資産は、1兆1,750億円となり、前年度末から559億円増加。

太陽生命

- ・基礎利益は、338億円、前年から9.9%の減少。
逆ざや額は、391億円、前年から89億円の増加。
これらは主に、昨年度の特異要因（住宅ローン証券化に伴う譲渡益など）がなくなったことによる。なお、同要因を除外した昨年度との比較では、基礎利益が48億円の増加となり、逆ざや額は4億円の増加とほぼ横ばい。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、865.7%、前年度末から2.4ポイントの上昇。
- ・実質純資産は、主に有価証券の含み益の増加により、4,642億円、前年度末から122億円の増加。

大同生命

- ・基礎利益は、1,027億円、前年から4.3%の減少。
逆ざや額は、194億円、前年から65億円の増加。
これらは主に、基礎利益に含まれる運用収支が減少したことによる。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、1,037.2%、前年度末から2.3ポイントの上昇。
- ・実質純資産は、主に、当期純利益の積み上げにより、6,696億円、前年度末から370億円の増加。

T & Dフィナンシャル生命

- ・基礎利益は、主に営業権償却や、変額個人年金保険の最低保証リスクに係る責任準備金の繰入により、67億円。
- ・逆ざや額は、39億円。
- ・ソルベンシー・マージン比率は、721.7%、前年度末から263.1ポイントの低下。
これは主に、平成17年3月末の変額個人年金保険の保有契約全件に対応する最低保証リスクを、保険リスク相当額に計上したため。
- ・実質純資産は、連結納税に伴う税効果による資本等の増加のため411億円、前年度末から65億円の増加。

[差損益関係]

(単位：億円)

	T & Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T & Dフィナンシャル生命	
	当連結 会計年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減	当事業年度末	前年度末 比較増減
有価証券差損益	4,549	-	1,870	181	2,646	91	31	14
うち公社債	1,256	-	368	232	850	1	37	28
うち株式	2,501	-	1,223	153	1,277	29	0	0
うち外国証券	354	-	229	188	131	50	6	1
うちその他の証券	379	-	41	24	336	95	0	13
うち金銭の信託	50	-	-	-	50	27	-	-
土地等の差損益	224	-	118	28	106	16	-	-

- (注) 1. 有価証券差損益については、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。また、金銭の信託内で保有する有価証券のうち、売買目的有価証券以外のものの差損益を含めて記載しております。
2. 太陽生命の有価証券差損益の前年度末比較増減は、内外株式の時価及び外貨建資産の為替を、前事業年度末は平成16年3月の月中平均、当事業年度末は期末時点により算出しております。
3. 太陽生命の土地等の差損益は、公示価格等をもとに算出しております。
4. 大同生命の土地等の差損益は、原則として鑑定評価額、重要性の低い物件等については公示価格をもとに算出しております。

< T & Dホールディングス連結 >

有価証券差損益は、4,549億円。

太陽生命

- ・有価証券差損益は、1,870億円、前年度末から181億円の増加。

大同生命

- ・有価証券差損益は、2,646億円、前年度末から91億円の増加。

T & Dフィナンシャル生命

- ・有価証券差損益は、31億円、前年度末から14億円の増加。

(参考)平成18年3月期通期業績予想

T & Dホールディングス

平成18年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(連結)

(単位：億円)

	17年3月期実績	18年3月期予想	増減率(%)
経常収益	23,167	21,700	6.3%
経常利益	1,088	950	12.7%
当期純利益	371	260	29.9%

(単体)

(単位：億円)

	17年3月期実績	18年3月期予想	増減率(%)
営業収益	260	130	50.0%
経常利益	223	110	50.7%
当期純利益	224	110	50.9%

1株当たり年間配当金予想は45円です。

生命保険会社3社(単体)

生命保険会社3社の平成18年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

(単位：億円)

	太陽生命保険 株式会社	大同生命保険 株式会社	T & Dフィナンシャル生命 保険株式会社
経常収益	10,400 (8.9%減)	9,800 (7.5%減)	2,100 (39.8%増)
経常利益	300 (15.4%増)	760 (20.7%減)	130 (1.6%増)
当期純利益	30 (57.7%減)	320 (3.9%減)	100 (-)

(注)括弧内は平成17年3月期からの増減率です。

(単位：億円)

	3社合算	太陽生命保険 株式会社	大同生命保険 株式会社	T & Dフィナンシャル生命 保険株式会社
基礎利益	1,070 (17.6%減)	330 (2.4%減)	860 (16.3%減)	120 (79.1%増)
保険料等収入	18,200 (1.2%増)	7,800 (1.0%減)	8,600 (2.8%減)	1,800 (42.9%増)
逆ざや額	870 (39.2%増)	460 (17.6%増)	370 (90.7%増)	40 (2.6%増)
新契約高	78,300 (3.8%増)	30,500 (5.5%増)	44,800 (2.9%増)	3,000 (0.1%増)
保有契約高	607,500 (2.0%増)	179,400 (5.7%増)	399,700 (0.7%増)	28,400 (2.5%減)
解約失効率 (%)	-	8.9 (当期並み)	8.1 (0.4%ポイント上昇)	9.8 (3.7%ポイント低下)

(注)1.括弧内は平成17年3月期からの増減率です。

2.新契約高、保有契約高及び解約失効率は、個人保険と個人年金保険の合計です。また、新契約高には転換による純増加を含みます。

実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります